# 学び舎通信

## ９月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします

### 夏休みも大活躍

東北大会に出場したサッカー部

7月22日から行われた宮城県中学校総合体育大会に地区大会を勝ち抜いた生徒達が出場しました。宮城県各地で柴田郡代表として最後まで戦い抜きました。

団体ではサッカー部が準優勝。決勝戦はＰＫ戦で惜しくも敗れましたが東北大会に駒を進めました。個人では、陸上、水泳、新体操で東北大会出場を果たしました。

また、7月24日には吹奏楽コンクールの地区予選がありました。残念ながら県大会へ出場することはできませんでしたが、迫力あるすばらしい演奏を披露し、会場いっぱいの聴衆の心に大きな感動を与えることができました。

### 親子の絆でアタック「金中PTA親子バレーボール大会」

7月31日、金ケ瀬中学校ＰＴＡ主催で「第36回金ケ瀬中学校ＰＴＡ親子バレーボール大会」が行われました。会を重ねること36回の伝統あるＰＴＡ行事です。

何と言っても、親子が同じコートに入り、クラス対抗でビニールバレーを行うため、プレーにも応援にも熱が入ります。親子で息のあったプレーもあれば、大人顔負けのプレーを見せる生徒もいたりと生徒も保護者も1年に一度楽しみにしている大会です。

今年は、新体育館で行う初めての大会となり、広くてきれいなコートで、思う存分バレーを楽しみ、ＰＴＡの懇親を深めていました。決勝は3年生チームどうしで争い、佐久間愁大君がキャプテンを務めるチーム、「アモーレ　SF☆ＨＡＲ20」が優勝しました。

## 暗唱大好き

### シリーズ⑤ 金中編

### 月曜の朝は「暗唱タイム！」

金ケ瀬中学校では、「おおがわらの暗唱読本『寿限無』を使って知的財産を増やし、表現力をつけよう！」を目標に、毎週月曜日の朝、朝の会が終わった後に10分間の「暗唱タイム」を行っています。そのやり方は、

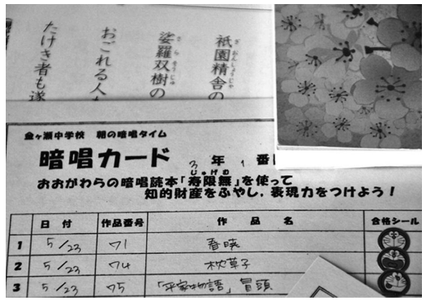
① 暗唱読本の中から、1週間に1作品を目安に暗唱練習する。

② 月曜の『暗唱タイム』の始まりに、暗唱パートナーにチェックしてもらう。合格したら暗唱カードの作品名の隣にシールを貼る。その後に、次の暗唱作品を決めて、練習する。

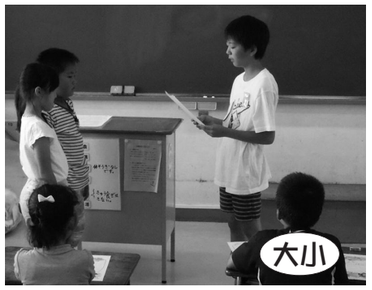
というもので、皆熱心に挑戦中です。

1週間に一度の取組ですが、朝読書の時間に読んだり、家に持ち帰って練習したりする生徒も多く、1学期間に20作品も暗唱した生徒がいるほどです。

暗唱は、声を出して豊かに表現することの最高の練習になり、様々な場面で身に付いた力が発揮されています。これからも金中生は暗唱がんばります！




### ゲームやスマホ等と正しく付き合うために




本校では、ゲームやスマホ等を正しく使うために、情報モラル教育を推進しています。また、ゲームやスマホ等を子どもに買い与える時は、家庭で必ず約束事やルールを決めることを進めています。

平成27年度から、児童会が主体となり、「ゲームは午後7時30分まで」などのルールを決め、毎週達成状況を調査したり、ルールを守るよう放送で呼び掛けたりしてきました。夏季休業中は、ＰＴＡが主体となり、ゲームやスマホ等の調査を行っています。

これからも、家庭を中心としながらゲームやスマホ等と上手に付き合うようにしていきます。

### 全校縦割り草取り作業

7月8日業間時間に花壇の草取り作業を行いました。今年は天気が良く花壇の草も大分伸びていました。

縦割り班ごとに決められた花壇の草取りを行いましたが、どの班も一生懸命取り組んでいました。特に高学年の子どもたちは草運びを進んで行ったり、低学年の子どもたちが取り残した草をしっかり取ったりしていました。短時間でしたが花壇はとてもきれいになりました。

この草取り作業も年数回計画されています。高学年のリーダーシップが発揮される良い活動となっています。

8月20日には、親子の環境整備作業が行われます。

### 「朝ボラで学校をきれいに！」

本校では、高学年を中心に「朝のボランティア活動」、略して「朝ボラ」を今年度から実施しています。

朝7時30分から8時までの間で、自分ができる時間（5分程度でも良い）に取り組んでいます。花壇や校庭の草取り、走り幅跳び用砂場の整地など、普段の掃除では手の付けにくいところを少しずつみんなできれいにしています。

県で2番目に広い敷地ですが、美しさでは、県1位を目指します。

## 身近な自然再発見

### …人間と共生する昆虫たち…

29「夏の吹雪？その正体は」

▲オオシロカゲロウ

ある夏の夜に末広橋を通りかかったら、車のライトの先に「びっくりぽん」な光景が・・・。なんと、そこには真冬の吹雪にそっくりのシーンが広がっていたのです。今回は、そんな夏の吹雪？を再現してくれる虫たちの話です。

もちろん、これは本物の吹雪ではありません。この虫の正体はオオシロカゲロウというカゲロウの一種です。このカゲロウは、姿かたちが小型のトンボとそっくりです。違うのは後ろの羽が小さく、しっぽが3本伸びていることです。

このカゲロウの幼虫たちは白石川の水中で暮らしています。9月のある夜に何千、何万も次々に羽化して親になります。おまけに、この虫は光に集まる習性があります。だから、大集団となって、末広橋の街灯のまわりを飛び回っていたのでした。これを見た人は誰でも吹雪と見間違えても当然でしょう。

オオシロカゲロウたちは、交尾が済むとすぐに川の中に産卵をして一生を終えます。川の外に産み落とされた卵は、歩道橋のあちこちに黄色の帯として残ります。翌日にこれを見つけた子どもたちが「謎の物体発見！」などと興奮して叫んだりします。まったく親も卵も人騒がせな虫ですよね。

また、車のワイパーを使わないと前が見えなくなり、踏みつぶされた油で滑りやすくなります。ブレーキもあまり利かなくなるので、冬の雪道走行と同じ怖い思いをすることになります。

これは皆さんにぜひ見てもらいたい町内「珍百景？」に推薦したい景色です。皆さんがもし見に行かれる時は、くれぐれも運転にご用心ください。

次回は、トンボと火星の「ふか～い」関係の話です。

元金小校長、昆虫教室（町教育委員会主催）講師　鈴木健司さん